Kameda

2024.7 No.280

脳血管内治療の今

亀田メディカルセンターの理念

私たちは、全ての人々の幸福に貢献するために
愛の心を持って常に最高水準の医療を提供し続けます

最も尊ぶこと ：患者さまのためにすべてを優先して貢献すること
最も尊ぶ財産：職員全員とその間をつなぐ信頼と尊敬
最も尊ぶ精神：固定観念にとらわれないチャレンジ精神

CONTENTS

亀田総合病院報
No.280
2024年7月号

3 巻頭言

4 かめナビ　脳血管内治療の今

12 看護の目　働くナースの日々の景色から

14 Close Up News

18 病院は誰かの仕事でできている

巻頭言

品質管理の新たな挑戦

品質管理部 部長／国際関係部 部長　アントニオ シルバ・ペレス

2024年は、亀田メディカルセンターの品質管理の歴史において重要な節目の年です。ISO9001の認証から25年、そして15年前にJCI（Joint Commission International、国際的な医療機能評価機関）から認証を受けました。

質の高い医療への揺るぎない決意を持ったリーダーたちに導かれ、私たちは25年前にプロセスを標準化し、改善を続ける旅に出ました。亀田総合病院は医療業界でいち早くISO9001を取得し、この決断が質の高い医療を提供するための道筋となり、2018年には、全事業所がISO9001の認証を取得しました。私たちは病院や診療所の集合体ではなく、互いに学び合う医療ネットワークとなりました。

2009年もまた、亀田メディカルセンターの品質管理の歴史において新たなマイルストーンとも言うべき重要な節目の年でした。この年、私たちは世界トップクラスの医療機関と肩を並べる医療機関であることを証明するため、日本国内にとどまらず世界に挑戦するというビジョンを明確に持ちました。リーダーの定めたこの高い目標に向かって前向きに取り組むスタッフたちの勇気は素晴らしいものでした。

2009年8月8日、私たちは日本で初めてJCIから認定を受けました。認証を受けた後、多くの病院や医療センターが私たちに倣いました。

今年は、ISO9001の3年ごとの審査と、JCI6回目の継続審査という2つの大きな審査があります。第三者が私たちの品質システムを検証することは病院にとって非常に大切なイベントです。しかし、日々品質を向上させる理由は、次の審査に備えるためではなく、次の患者さまのために備えるものでなければなりません。そしてこれこそが、亀田メディカルセンターで働くすべての人にとってのゴールであるべきだと思います。

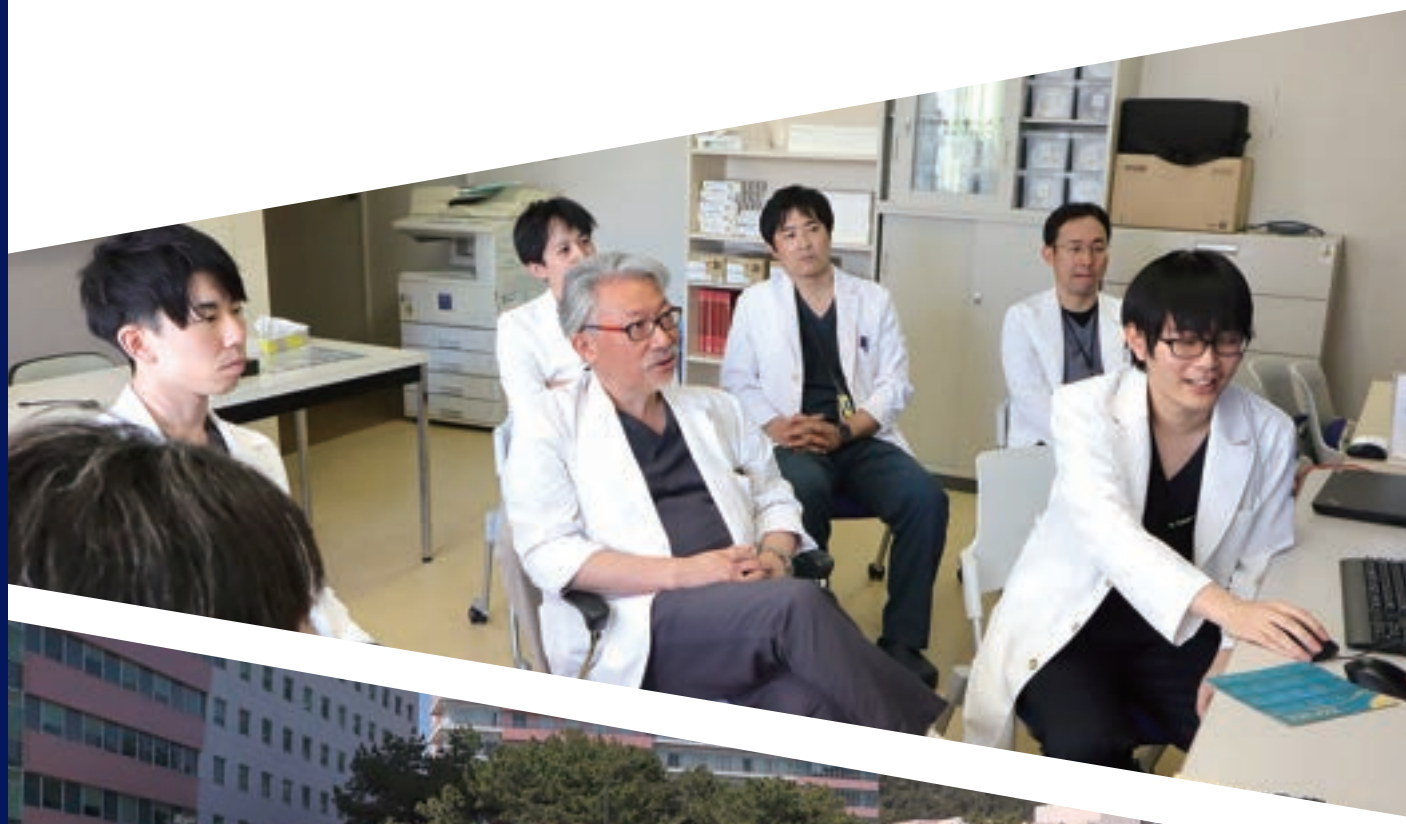
370年を経て、私たちの組織はより強固になり、次の課題に取り組む準備が整っています。可能な限り最高の医療を提供できるよう、これからも力を合わせて挑戦して参りましょう。

原文（英文）はQRコードからご覧ください

かめナビ

脳血管内治療の今

亀田脳神経センター



写真上：脳血管内治療科と脳神経外科の合同カンファレンスの様子
写真下：脳神経外科（左側）と脳血管内治療科（右側）の医師たち

何気ない日常を突如襲う脳卒中。その一撃が、人生を一変させる後遺症として影を落とすことも少なくありません。今回のかめナビでは脳血管疾患に立ち向かう脳血管内治療科と、新たに発足した亀田脳神経センターについて、脳血管内治療科の田中美千裕主任部長(写真左)と、門岡慶介部長(写真右)にお話をうかがいました。

寝たきりの原因No.1

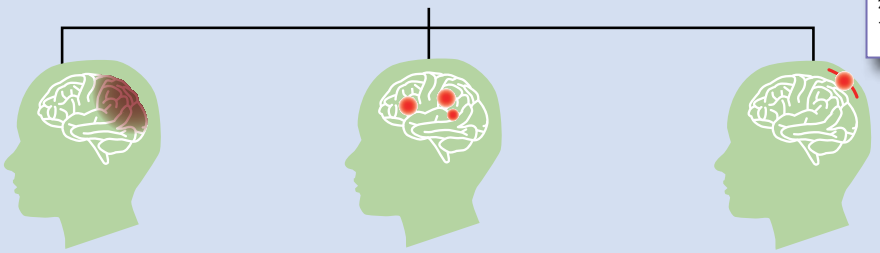
厚生労働省の2022年の報告※1によると、日本人の死因のトップは悪性腫瘍(がん)、心疾患、老衰と続き、4位が脳血管疾患(脳卒中)となっています。一方で介護が必要となった主な原因の第2位にも脳卒中がランクインしており、「命は助かっても介護が必要になったり、一人で生活をするのが難しくなる現状がある」と田中主任部長は言います。

脳血管内治療は脳卒中(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)など脳血管の病気に対する比較的新しい治療法です。カテーテルと呼ばれる直径1～2㎜前後の細長い特殊な管を血管内を通って患部に到達させ、出血の原因となる脳動脈瘤などを閉塞して止血したり、脳梗塞の原因となる血栓を体外へ回収したり、動脈硬化で細くなっている血管を特殊な器具を用いて広げたりする治療です。頭蓋骨などを大きく開いて手術をする開頭術に比べ、太ももの小さな切開部からカテーテルを挿入するため、手術時間が短く、体への負担も少ないことなどから近年急速に普及しています。

※1　2022(令和4)年　国民生活基礎調査の概況(厚労省)
https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html

脳卒中とは

脳卒中とは、脳の血管がつまったり破れたりすることによって、脳が障害を受ける病気です。



脳梗塞

脳卒中の75%を占める、もっとも多い疾患。脳の血管がつまったり、狭くなって血流が悪くなった状態です。
薬物やリハビリテーション以外に、超急性期の脳梗塞の場合はカテーテルによる脳血管内治療を行い、つまった血栓を回収します。

脳出血

脳卒中の10%を占めています。脳の血管が破れ、出血している状態です。
出血の量や部位、症状などによっては手術で血液を除去したり、原因疾患を治療するために開頭手術や脳血管内治療を行うこともあります。

くも膜下出血

脳卒中全体の約3%と比較的少ないですが、脳の血管にできた動脈瘤というコブが破れ、くも膜下に出血している危険な状態です。出血した脳動脈瘤は一時的にかさぶたがついて止血していますが、いつ再破裂するかわからないため、再出血の予防(脳血管内治療によるコイル塞栓術や開頭でのクリッピング術)を行います。

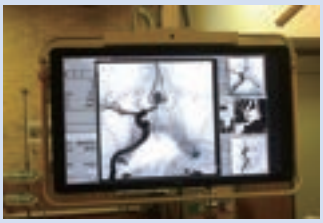
POINT

脳血管内治療科のブログでは患者さまや開業医の先生方向けに疾患や治療の詳しい情報を公開しています。ぜひご覧ください！

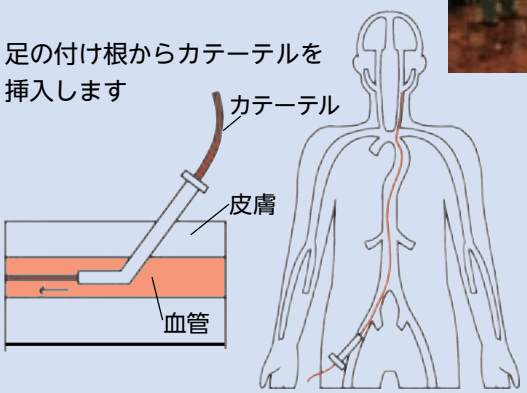
門岡 慶介
亀田脳神経センター
脳血管内治療科　部長
鹿児島県出身

図で見る「脳血管内治療」

POINT
手術は脳血管内治療科の医師だけではなく、放射線科医や技師、麻酔科医などさまざまなプロフェッショナルがかかわっており、安全に万全を期しています。



実際の画像



田中 美千裕
亀田脳神経センター
脳神経外科　主任部長／脳血管内治療科　主任部長
神奈川県出身

脳血管内治療の今昔

比較的新しいとはいうものの、脳血管内治療の基礎技術は1970年代からありました。ただ、治療や診断の要となる造影剤を入れて血管を見る脳血管撮影装置(X線透過装置)のクオリティが未熟で、当時はこの技術で治療できる疾患はごく限定的でした。しかし1997年になり、動脈瘤の破裂を防ぐためプラチナ製のコイルを瘤のなかに充填させる「コイル塞栓術」(※前ページで解説)が確立し、保険適用となったことから急速に広がっていきます。2003年には、くも膜下出血の患者において、従来の開頭して脳動脈瘤の根元部分をクリップで挟む手術よりも、脳血管内治療のほうが社会復帰できる割合が高いとの研究結果が国際的な学術誌で発表されました。

亀田総合病院ではじめて脳血管内治療が行われたのは2004年。スイス・チューリッヒ大学で脳血管内治療部主任として働いていた田中主任部長が帰国し、亀田総合病院に着任した年です。2015年には不整脈などが原因でできた血栓が脳血管をつまらせてしまう重症な脳梗塞をカテーテルで取り除く「血栓回収療法」が普及し始めます。その技術の進歩は目覚ましく、「これまでは寝たきりになってしまっていたような患者さまが歩いて退院できる」ようになるほどだったと田中主任部長は当時のブレイクスルーを振り返ります。

Time is Brain

Time is Brainは「Time is Money(時は金なり)」の言い換えで、脳卒中になったその瞬間から時間との戦いがはじまることを示しています。とくに脳梗塞では1分間治療が遅れると、190万の脳細胞が失われるとも言われており、専門施設へすみやかに搬送し、治療を始めることが大切です。また発症から4.5時間内の脳梗塞ならば、静注血栓溶解(rt-PA)療法と呼ばれる、脳の血管につまった血栓を溶かす薬を使うことができますが、やはりカテーテルによる

血栓回収療法の方が確実かつ効果も安全性も高く、また血管内治療も早ければ早いほど有効性が高く後遺症を軽くすることができるとされています。

しかし発症してから治療までを短い時間で完遂させるには、救急隊や救命救急センターなどとのスムースで迅速な連携が欠かせません。また医療機関側も24時間365日対応可能であることが求められます。脳血管内治療科は2020年に脳神経外科から独立し、門岡慶介部長、光武尚史医長を迎え、3名体制でスタートしました。昨年は坪木辰平医師も加わり、現在は4名体制で千葉県南部の広範囲な診療圏をカバーしています。

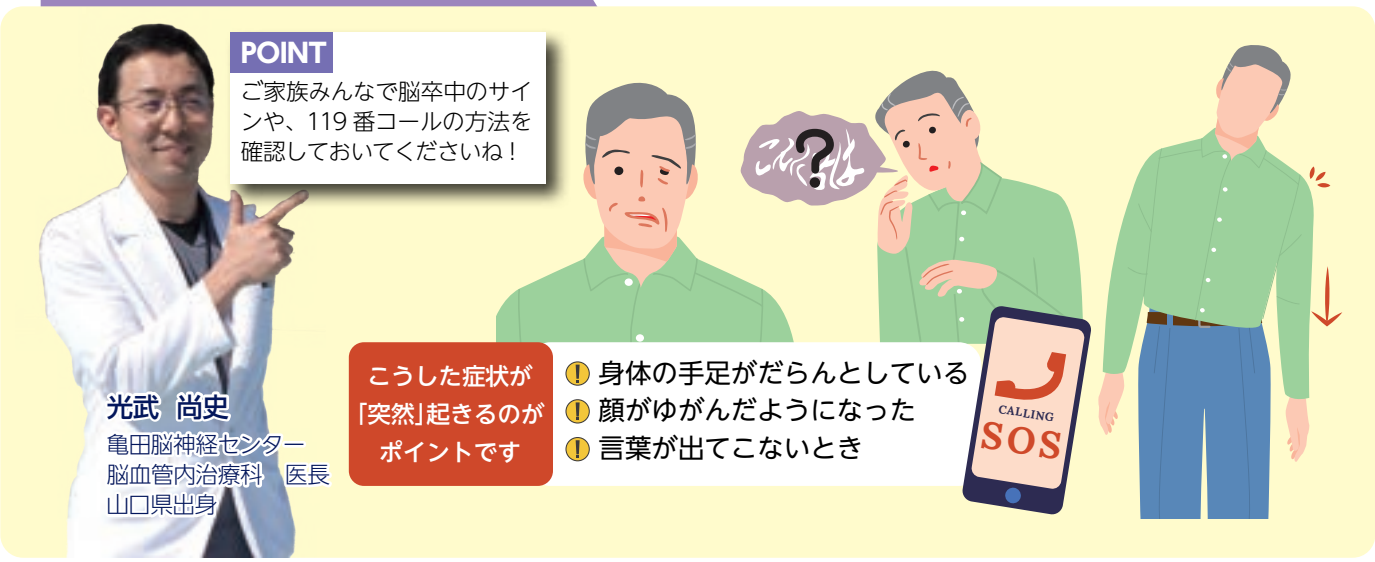
このような要員と組織の充実に伴い、「亀田総合病院は、24時間365日、静注血栓溶解(rt-PA)療法を含む脳卒中診療を行える施設であると同時に、カテーテルを用いた血栓回収療法を24時間365日行える施設基準を満たした『一次脳卒中センターコア施設』として認定されています。千葉県南部では唯一のコア施設であり、責任は重大です」と門岡部長。十分な治療を行うことができない施設への搬送を防ぐため、近隣救急隊への情報発信も積極的に行っています。

しかし房州ならではの悩みもあると田中主任部長は指摘します。「房州人はおっとりしているのか、具合が悪くても“明日病院にかかればいいか”とそのままにしてしまうことも多々あります。翌朝家族が呼びに行った時には部屋で倒れていたという事例もよくありました」とのこと。自分や家族を守るためにも、脳卒中の症状を知り、必要なときはためらわず救急車を呼べるよう、日ごろから学んでおくことも大切だと言います。市民講座などを通じて脳卒中について社会全体で知識を共有することが必要と言えます。

「あなた、未破裂脳動脈瘤がありますね」

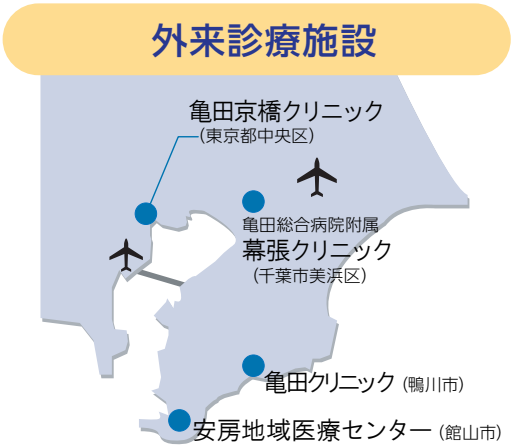
緊急性の高い患者のほか、脳血管内治療科が力を入れているのが未破裂脳動脈瘤と診断された方向けの外来です。脳ドックを受けたり頭痛やめまいがするから“念のために”MRI撮影をすることは一般的になってきました。多くの方はMRIで異常がありませんでしたよと言われることを期待して検査を受けるわけですが、日本人の20人に1人の割合で未破裂脳動脈瘤が発見されます。急な告知に動揺し、ど

こんなときは迷わず救急車を



うしたらよいのか分からず右往左往してしまうことは想像に難くありません。これこそが問題と田中主任部長は感じています。「多くの健診施設や脳ドックでは、外来で患者さんの相談にのってくれる脳血管の専門医がおらず、脳ドックで未破裂脳動脈瘤が見つかっても詳しい説明を聞くことができません。MRI検査自体は売上が高いので多くの施設で行っていますが、治療すべきかどうかを相談したり、患者さんの悩みや不安を取り除く外来を行っている施設が少ないのが現状です。大切なのは未破裂脳動脈瘤を見つけることより、見つかった“後”の治療あるいは経過観察することになった時の不安を解消してあげるケアです」と語ります。

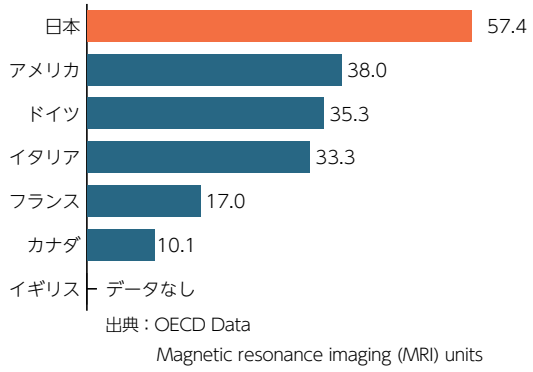
現在亀田京橋クリニックの脳血管内治療科の外来では、3分の2が他院からの紹介、残りは脳ドックで未破裂脳動脈瘤を指摘された方とのこと。抱えているリスク、ライフスタイル、症状などを詳しく調べ、今すぐ治療すべきかどうか、経過観察でよいのか専門医が丁寧に見極めることは「時間も手間もかかるプロセスで、専門的な知識が必要ですが、MRI検査を受けたあとにこうしたサポートが受けられるかどうかが大切です」と強調します。



脳ドック受けるべき？？

日本はMRI大国と呼ばれるほど人口に対するMRIの台数が多く、駅ビルの小さなクリニックでも脳ドックをやっています。ただ過剰な「脳ドック」には田中主任部長は懐疑的です。「仮に2㎜未満の小さな脳動脈瘤が見つかってもそれを積極的に治療する医学的な根拠は乏しく、“生活習慣を見直しましょう”“経過観察をしましょう”となる。医療関係者の中にはただ不安になるだけの検査ならば受けない方が良いという人もいます」と話します。大腸がんや乳がんなどは頻度が高く、なおかつ早期発見・治療することが生命予後の向上に大きく寄与するので、こ

国民100万人あたりMRI 台数（G7 諸国：2021）



POINT
日本の MRI 台数は他国と比較して多く、大きな病院から小さなクリニックまで保有しているのが特徴です。

坪木 辰平
亀田脳神経センター
脳血管内治療科
東京都出身

のような疾患では検診や発症前の検査は有益ですが、未破裂脳動脈瘤のように破裂のリスクは小さく、また治療の有益性もあまり確立されていない疾患では、脳ドックの意義は少ないとする意見もその理由のひとつです。

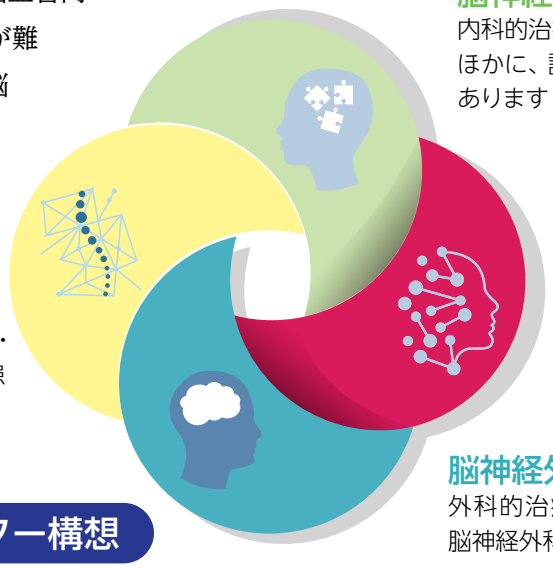
でも、だからといってMRI検査や脳ドックは全く必要ないわけではないと田中主任部長。「近年の研究で、遺伝の要素が大きいことが分かっています。2親等内の家族に脳卒中で突然死された方がいる場合や、血縁者にくも膜下出血になった方がいる場合は定期的な脳ドックがおすすめです」。家族歴は外来でも問診で特に丁寧に確認するポイントだそうです。

脳疾患のスペシャリストたち

日本の大学病院などでは、そもそも疾患名が明確になった紹介患者が中心のため、外科は外科、内科は内科というように臓器別でしっかりと専門が分かれています。原因がはっきりしている病気ならば問題はないのですが、例えば「頭が痛い」場合、脳神経内科に行けばよいのか、それとも脳神経外科に行くべきなのか、はたまた脳血管内治療科に行くべきなのか判断が難しいところです。思い切って脳神経外科に行っても「MRIの結果は異常なし、手術は必要ありません」となれば内科にかかりなおす必要もあり、患者さまにとっては文字通り頭の痛い問題です。逆に脳神経内科にかかって、たまたま未破裂脳動脈瘤が見つかり手術は必要ないまでも内科的な治療をしたほうがよいケースなど様々です。また疾患に対して脳血管内治療がよいのか、それとも開頭手術のほうがよいのかなどは、脳疾患のスペシャリストたちが十分話し合う必要があります。しかし、大学病院では縦割り組織の弊害により、複数の診療科同士による横断的なカンファレンスがないことも珍しくないそうです。

そんな診療科の垣根を越えるべく昨年発足したのが「亀田脳神経センター」です。脳血管内治療科が以前から連携関係にあった脳神経外科に加え、脳神経内科も加わりました。これにより、患者さまが「どの科にかかろうか」と迷うことが減ったそうです。

また脳神経センターとなったことは、近隣の開業医の先生にとってもメリットだったと感じるそうです。脳疾患が専門でない開業医の先生にとって、どの科に紹介状を書けばよいのかは迷いどころです。今後は「亀田脳神経センター宛て」で紹介状を出せばよいため、開業医の先生にとっても患者さまにとっても面倒が減ると期待しています。



脳神経内科
内科的治療を担当。病気の治療のほかに、診療科をつなぐ門番でもあります

脳血管内治療科
カテーテルを用いた脳血管内治療を行っています

脊椎脊髄外科
外科的治療を担当。脊椎・脊髄・末梢神経が原因で起こる疾患を専門にしています

脳神経外科
外科的治療を担当。開頭手術など、脳神経外科治療を提供しています

亀田脳神経センター構想

脳卒中センターではなく、脳神経センター

脳梗塞を中心とした脳卒中の治療を行う「脳卒中センター」は全国の医療機関に数多くあり、それほどめずらしい存在ではありません。では亀田ではなぜ脳神経センターなのでしょうか。「脳卒中のみではなく、脳腫瘍や外傷、パーキンソン病などあらゆる脳疾患の分野をカバーするためです」と田中主任部長は説明します。なお各診療科のヒエラルキーを極力なくすために亀田脳神経センターのセンター長はあえて設けていません。月に一度３科が一堂に会してカンファレンスを行うのも特長のひとつです。

治療の選択肢が増えることだけではなく、緊急時の対応も心強いのが脳神経センターの大きな特長です。カテーテル治療を待っている患者さまが突然くも膜下出血を起こしたり、認知症治療中の患者さまが脳梗塞を起こすことも想定されます。そんなときにスムーズに専門医の連携がとれることは亀田総合病院の強みと言えます。

脳のスペシャリストを育てる

「脳神経センターの最大のメリットは“教育”」だと田中主任部長と門岡部長は強調します。亀田脳神経センターで脳のスペシャリストを目指す医師は、脳神経外科･脳神経内科･脳血管内治療科のすべてでトレーニングを行うことができ、あらゆる脳疾患の知識や技術を学ぶことができます。脊椎脊髄外科も近く脳神経センターに仲間入りするそうです。大学病院などでは例えば脳神経内科の医師が脳神経外科で学びたいと希望したとしても、診療科同士の垣根が高く、希望がかなわない場合もあります。

一方で脳神経センターならば、将来的には脳血管内治療というスペシャリストを目指す医師でも、センター内の脳神経外科、脳神経内科を自由に行き来することができます。このことを田中主任部長は「ファミリーレストラン」にたとえています。「ラーメンが食べたいけど、カレーも食べたいというとき、ラーメン屋さんに行ってしまうとなかなかカレーは食べられません。その点ファミレスだったら両方選択できますよね」とのこと。いろいろな治療法を学んだうえで、患者さまにとって最適な治療を提案できる意義は大きいと感じているそうです。

若い先生に特におすすめ

脳血管内治療科をPRするのは門岡部長。若い先生が多い場合、手技･症例の奪い合いなどが起きてしまうこともありますが、当院では指導医が多いためその心配はありません。またセンター化してから大きな医療機関からの紹介件数も増えていますが、希少疾患の症例数も増え、さらに経験に裏打ちされた質の高い医療が提供できるという好循環が生まれているそうです。

ローカルとグローバル 地域から世界へ

こうした教育への情熱は、田中主任部長が脳血管内治療を目指した頃に遡るそうです。尊敬する教授のもとで学ぶため、1年ほど必死で語学を勉強して渡ったスイス。そこでは多くの医師たちが惜しげもなく技術を教えてくれたことが田中主任部長の印象に残っていると言います。「医療機器や医薬品にはパテント(特許)がありますが、技術にパテントはありません。一人の医師が生涯で手術できる件数は限られていますが、次世代の先生たちに技術を伝えることができれば、その先生たちも大勢の患者さまに手術することができ、全世界の脳卒中患者さまが恩恵を受けることができます。これこそがWFITN(世界脳血管内治療連合)の理念でもあります」と話します。

亀田脳神経センターのこれから

門岡部長は脳血管内治療科について、「あらゆる疾患に全力であたっていますが、特にご紹介いただきたいのは脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻の方。脳血管内治療科の腕の見せ所と感じるとともに、他科との連携が強みになります」と言います。また健診センターや開業医の先生方、患者さま向けに脳血管疾患についてもっと知っていただくため、積極的な情報発信を行いたいと考えているそうです。

次の目標は「神経専門病棟の構築」と語るのは田中主任部長。脳神経内科の福武敏夫部長と話しているのは「あらゆる脳の病気を集約化した包括的な神経専門病棟」。脳のスペシャリストとなる看護師の育成も視野にいれています。そのためにはさらなる要員の強化も必須です。「日本国内の先生方ももちろん、海外の先生方も亀田で研修がしたいと思ってくださる魅力的な施設にしたいと思っています」と抱負を語ります。

WFITN(世界脳血管内治療連合)とは

現在田中主任部長はWFITNのPresidentを務めています。世界脳血管内治療のトップということもあり、日本国内、さらにはまだ脳血管内治療がそれほど盛んでない国の医師たちがトレーニングできるよう心を砕いています。自分自身が34年前にWFITNを創設した教授たちに指導していただいた経験から、今度は自分がサポートする側に回って貢献したいそうです。現在もインド、フィリピン、エジプトなどといった国から亀田総合病院に研修に来てくれる先生も多く、地域医療を支えると同時に、世界を見据えた活動も行っています。

WFITNのPresidentとして取材を受けたときのイラスト。「写真を送り、専門や趣味(ワイン)などの質問に答えてすぐにアーティストが書き上げてくれました」とのことです。

看護の目

孤独の入院生活

健康管理支援室　服部智恵

「お母さんが大変 !!!」

ゴールデンウィークも終盤にかかった午前 11 時過ぎ、北海道に住む姉から一本の電話がありました。母が早朝転倒し、嘔気(おうき)がするためベッドから起きられずにいるとの事でした。姉にすぐ救急車を手配するよう伝え、その場にいた姪にビデオ通話にするよう依頼し、母の様子を携帯電話の画面越しに見守りながら、「大丈夫だよ、心配ないよ」と母へ声掛けをしました。

父が急死した 3 年前、父の最期の様子を聞いては想像する事しかできず、自分の目で最期を見届けたかった、という思いがあったので、今回はすぐにビデオ通話にして母の様子を確認したかったのです。

転倒し嘔気があるのだから脳外科のある病院に行くよう義兄が救急隊員に依頼したのですが、決まりがあるとの事で自宅から近くの病院に搬送される事になりました。搬送された病院で脳の CT を撮り「硬膜下血腫」と診断され、結局、脳外科のある病院に移動する事になりました。

その病院では血腫を取り除く手術を 2 度行い、医師より母の状態について聞きに行く度、短時間でも面会が許され、母も姉も互いに様子を確認し安心できていました。術後出た失語症は次第に良くなり、リハビリも順調に進み、入院から 2 か月後、自宅近くの病院へ転院が可能となりました。

転院先の総合病院は忙しいため教育がされていないのか、あまり評判が良くありませんでした。しかし、毎週医師の話を聞きに行く自営業の姉の負担を考慮すると、近くの病院に転院するのがベストだと考え、7 月初旬に転院しました。自家用車での移動だったのですが、車内の母は冗談も言えるほど明るく前向きに、「リハビリを頑張って家に帰る」と話していました。

コロナ感染症は法上の位置づけが 2023 年 5 月 8 日から 5 類感染症となりましたが、転院先の病院では面会が出来ませんでした。また(リハビリ目的のための入院であり)状態が安定している母について医師へ家族が状態を聞きに行くという事もなくなり、スマホを十分に使いこなせない母とは画面上でも対面する事は難しくなりました。ただ、電話は終日可能だったため、母を退屈させない程度に電話を掛けていました。しかし、転院後 2 週間が過ぎた頃から、「もう私はどうなっても良い」「(既に亡くなった)姉に会いに行きたい」などの気弱な言葉が聞かれ、電話越しの声も弱々しく、次第に張りがなくなっていき

ました。前向きだった母は２週間ですっかり変わってしまいました。

入院期間が長くなると、不安・孤独感は大きくなるばかりです。孤独を感じている人は感じていない同世代の人と比べて、認知症あるいはアルツハイマー病を発症するリスクが約２倍高いことが、米ボストン大学の研究で明らかにされています。また孤独は認知症だけでなく、精神的な健康問題を引き起こす可能性があり、QOL（生活の質）や機能にも悪影響が生じ、健康の回復を遅らせうつ症状を引き起こす可能性があると言われています。

面会を制限された入院患者さまが孤独を感じる事なく、認知機能の健康を維持していくためには、その患者さまに関わるスタッフが家族や友人と電話やチャットで交流する手伝いをし、孤独感を感じさせないようすべきだと思いました。

看護業務は多忙で、当院でも他部署からの応援体制で成り立っている病棟もあります。しかし、今回家族がこのように孤独を感じ、精神的に悪影響があったのを目の当たりにして、私自身看護師として、患者さまとのかかわりや立ち振る舞いを振り返る良い機会となりました。

家族を繋ぐ寄り添う看護

健康管理支援室　鴇田光代

服部さんの『孤独の入院生活』から、私自身が入職５か月目で経験した看護体験を思い出します。

「自分で死ぬ事もできない。出ている涙すら自分で拭う事ができない」と清拭中に声を出して泣き出した30代男性は、家族旅行中の事故で頸髄損傷と診断され入院されていました。はじめは近くのホテルに滞在していた奥様とお子様もやがて自宅へ戻られ、介護は実母様が担い、病院に泊まり込んで患者さまを看ていました。その後、奥様は徐々に気持ちも離れ離婚を考えていると実母様から伺いました。本人、妻、母、子、それぞれの思いを考えると、やり切れない気持ちになり、患者さまと一緒に泣いた事を覚えています。

服部さんと私の経験から、家族が離れていても一緒に看病・介護をしていると思えるように関わる事が看護師の役割だと考えます。家族が入院すると生活は一変してしまいます。現代、独居の方やご家族が遠方にいる方も多く、患者さまが孤独を感じないように、ご家族が面会に来なくても入院生活の様子がわかり安心してもらえるように関わる必要があります。電子媒体や情報ツールを活用し、患者さま・ご家族と対話し、気持ちに寄り添い看護を提供できたらと考えます。

CLOSE UP NEWS

クローズアップニュース

2024年度　医師初期研修

本年度臨床研修課程の初期研修医として第38期生24名が採用され、37期生24名とあわせて48名が臨床研修をスタートさせました。各医師の氏名は次の通り。（敬称略）

《1年次生》

〇亀田初期研修プログラム

・石川　菜々子（東京医科歯科大学）
・緒志　涼路（琉球大学）
・茂田　治樹（東北大学）
・曽我部　拓（慶應義塾大学）
・中島　弘　（東京医科歯科大学）
・花田　剛郎（順天堂大学）
・福田　仙一（岐阜大学）
・松原　京平（新潟大学）
・尾方　優香（北里大学）
・洪　永鎮　（奈良県立医科大学）
・矢代　順哉（兵庫医科大学）
・山田　賢汰（東邦大学）
・東　珠莉　（横浜市立大学）
・江嵜　康将（慶應義塾大学）
・川部　大志（東海大学）
・坂元　太朗（長崎大学）

〇亀田小児科産婦人科プログラム

・大川　雄生（三重大学）
・尾仲　穣　（京都府立医科大学）
・加藤　乃愛（東京医科歯科大学）
・加藤　優　（昭和大学）

〇地域ジェネラリストプログラム

・大畑　温嗣（島根大学）
・金森　真穂（東海大学）
・松本　佳大（北里大学）
・八木　有紗（昭和大学）

《2年次生》

〇亀田初期研修プログラム

・安藤　大晃（杏林大学）
・伊東　納野（東北大学）
・佐野　匠　（日本医科大学）
・清水　花穂（弘前大学）
・菅野　義也（富山大学）
・竹田　早希（東京女子医科大学）
・千歳　修司（昭和大学）
・長尾　史門（国際医療福祉大学）
・根本　康太郎（東北大学）
・野呂　佳史（秋田大学）
・福田　直也（順天堂大学）
・藤山　拓海（慶応義塾大学）
・依田　恵　（北海道大学）
・永井　晶子（徳島大学）
・三上　眞由（滋賀医科大学）
・中井　利宣（岡山大学）

〇亀田産婦人科プログラム

・建部　都志子（長崎大学）
・宮本　楓　（鹿児島大学）

〇亀田小児科プログラム

・可児　涼真（北海道大学）
・竹内　映梨子（北里大学）

〇地域ジェネラリストプログラム

・卜部　真輝（国際医療福祉大学）
・梶川　浩宇（岡山大学）
・安田　友子（鹿児島大学）
・吉田　ジェイソン（滋賀医科大学）

2024年度　歯科医師臨床研修

歯科医師卒後研修室では、研修歯科医として第28期生6名が採用され、辞令交付が行われました。（敬称略）

・海藤　奏美（東北大学歯学部）
・篠木　紀彦（東京歯科大学）
・篠田　智香（日本大学松戸歯学部）
・髙橋　勇樹（日本大学松戸歯学部）
・土井　萌友夏（昭和大学歯学部）
・畑　孝典　（奥羽大学歯学部）

亀田カイゼン・アワード2024

5月24日(金)、「亀田カイゼン・アワード2024」の発表会と表彰式が行われました。

職員の自発的な業務改善活動を促進するための表彰制度として、2021年度から始まった亀田カイゼン・アワードですが、今年は全事業所から74件の改善提案の応募があり、1次から3次審査を経て16演題まで優秀演題が絞り込まれました。

この日、代表者による取り組み発表が行われ、審査の結果、関川志保師長を代表者とするKタワー9階病棟での「有効な病床運用」の取り組みが大賞(理事長賞)に選ばれました。血液腫瘍内科を中心とするK9病棟では、移植や超急性期の化学療法など、不安定な状態になりがちな患者さまを対象とする一方で、前年度末に中堅看護師が退職し、新人が増加したことで、それまで以上に病床数を縮小せざるを得ない状況が発生。そこで、教育体制を強化し、10名の新人看護師の育成と、辞めない職場教育を行うなど、効果的な人材教育管理、職場風土の醸成に取り組んだ結果、退職者の激減や有効な病床管理につながり経営的にも貢献した点が評価され、大賞受賞となりました。

亀田俊明院長は今年度の応募提案を振り返り、「IT化などを通じて病院全体で業務の効率化が進められていることを実感した」としつつ、引き続き医療の質や患者サービスの向上に寄与する取り組みが増えることに大きな期待を寄せました。

「亀田カイゼン・アワード2024」の受賞提案は以下のとおり(敬称略)

【大賞(理事長賞)】

代表者	関川 志保(K棟9階)
提案名	有効な病床運用

【経営管理本部本部長賞】

代表者	龍沢 文(京橋国際連携室)
提案名	中国語ドックコース内容・料金の改訂によるインバウンド全体の収益・満足度の増加

【医療管理本部本部長賞】

代表者	浦邉 可奈子(キャリア支援室チーム)
提案名	有効なベッドの活用には新人看護師も即戦力!! 早期独り立ちへの支援

【情報管理本部本部長賞】

代表者	滝口 幸代(業務改善推進活動 情報収集チーム)
提案名	情報収集時間の短縮(就業前残業の低減)

【亀田総合病院長賞】

代表者	黒田 宏美(腫瘍外科×APS×PCT)
提案名	「全ての人に緩和ケアを」肉腫手術術後のPCT全症例介入システムの導入

【亀田クリニック院長賞】

代表者	石井 麻由美(C棟看護チーム)
提案名	化学療法残枠カレンダー WEB化

【亀田リハビリテーション病院長賞】

代表者	永島 隆次(人事課 オートメーション導入班)
提案名	会計ソフトへの伝票入力の自動化

【亀田ファミリークリニック館山院長賞】

代表者	金子 璃紗(亀田IVFクリニック幕張 改善チーム)
提案名	職員技術評価システム開発

【亀田京橋クリニック院長賞】

代表者	横山 泰昭(薬剤部 製剤科)
提案名	軟膏予製の容器変更による患者満足度向上とコスト削減

【幕張クリニック院長賞】

代表者	松山 砂織(手術室〔クリニック〕)
提案名	手術室における眼内注射運用改善の取り組み

【亀田MTGクリニック院長賞】

代表者	宇佐見 梨香(外来診療の予約電話一本化チーム)
提案名	外来診療予約電話一本化による業務改善

【亀田IVFクリニック幕張院長賞】

代表者	勝又 翔子(臨床成績シミュレーションチーム)
提案名	治療成績・治療費用のシミュレーター開発 ～臨床データを未来の患者に活かす～

【亀田森の里病院長賞】

代表者	清水 まみ(KRH二次性骨折予防ワーキンググループ―発足2年目の続報―)
提案名	二次性骨折予防継続加算取得にむけた多職種・事業所横断の取り組み(続報)

【亀田浜荻クリニック院長賞】

代表者	上村 尚美(実績指数対策チーム)
提案名	ひと目でわかる! 適切な退院時期の決定と支援

【業務改善特別賞】

代表者	佐粧 帆奈美(らくらく住民税)
提案名	eLTAX 地方税ポータルシステムを活用して退職者の住民税処理

【動画活用特別賞】

代表者	庄司 麻依琴(チーム術前外来)
提案名	術前外来説明をビデオ視聴へと移行し業務効率化

久能医師が最優秀論文賞受賞

久能医師

整形外科部長代理で上肢外科・外傷再建センター長の久能隼人医師が大腿骨内側上顆からの血管柄付き骨移植についてまとめた論文が、『日本マイクロサージャリー学会会誌 第37巻第1号』にて最優秀論文賞を受賞しました。

久能医師は、整形外科のなかでも上肢(腕)の怪我や疾患を専門としており、今回の論文では骨折が癒合せず偽関節と呼ばれる非常に治りにくい状態になった際に有効とされる大腿骨内側上顆からの血管柄付き骨移植についてまとめています。

手術では大腿骨(太ももの骨)の一部を採取し、血管とともに偽関節部に移植することで、骨の血流を改善し治癒を促進します。また、大腿骨の一部である内側滑車の軟骨が、手根骨の一部に類似しているため、2019年からは骨だけでなく軟骨の再建にも利用されており、患部の構造と機能の両方を回復させることが可能になりました。

移植時のポイントやリスク、血管解剖の特徴を報告した論文ということで、臨床手技に役立つ内容である点などが編集委員から高く評価され、編集委員会が最も注目した論文として最優秀論文に選出されました。

受賞を受け久能医師は、「一般的に難しいとされる手術もより確実で安定した手技として提供できるようになってきており、その経験を患者さまに還元していきたい」とコメントを寄せてくれました。

AIを用いた実証結果が「Pathology」誌に掲載

AI(人工知能)を用いて前立腺がんや乳がんの病理を検出する病理科の研究成果が、『Pathology』誌に掲載されました。

この研究は、前立腺がんおよび乳がんのそれぞれ100例の生検を対象に、Ibex Medical Analytics社が開発したGalenというソフトウェアプラットフォームを用いた病理診断の評価を行ったもので、当院非常勤医師であり、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科情報病理学助教のクリス・ラミ医師がこの研究結果をまとめています。

現在、前立腺がんや乳がんをはじめとするがんが増加している一方で、病理診断を行う臨床病理専門医の数は全国的に不足しています。AIの診断技術が臨床病理をサポートし、より精度の高い診断の手助けとなることが期待されています。

臨床病理科特任包括部長の福岡順也医師は、「見逃すリスクのある小さい悪性所見を発見するなど、効果を実感しています。私たちは日本で初めてデジタル病理とAIを日常的に使用する病理部門となったと感じています」とコメントしています。

亀田京橋クリニック　専門人間ドックの新オプションが好評

亀田京橋クリニックでは、人間ドックのスタンダードコースに加え、さらに高精度ながん予防・早期発見を目指す「プラチナがんドック」と、突然発生し生命を脅かす血管系疾患に対応する「心臓・腎臓・脳血管ドック」の2種類の専門人間ドックを提供しています。

今年度より、専門人間ドックに新たな「アンチエイジングオプション」が追加されました。以下の3種類の検査が選択可能です。

酸化ストレス検査: 老化の原因となる身体の酸化状態を調べます。

ホルモン年齢検査: 年齢やストレスで減少するホルモンの状態をチェックします。

腸内フローラ検査: 腸内に存在する細菌を調べ、腸内環境の改善を目指します。

いずれの検査も、ドックで採取した血液などのサンプルを使用して行います。それぞれの検査は単独でも選択可能です。

新浪医師

プロジェクト責任者の新浪千加子健康管理センター長は、「老化は規則正しい生活習慣や気持ちの持ち方で、その進行速度を変えることができます。男女問わず、いつまでもイキイキと若々しくお過ごしいただくためにこれらの検査をぜひお役立てください」と話しています。

亀田京橋クリニックの最新情報はInstagramで！

公式Instagramでは、亀田京橋クリニックのご案内のほか、スポーツトレーナーによる体をほぐす簡単なストレッチ「ほぐスト」や、健康のための最新トピックスなどを随時紹介しています。ぜひご覧ください。

新治療薬「レカネマブ」の投与を開始

５月初旬から、新たなアルツハイマー型認知症薬として注目される「レカネマブ」を用いた治療が、当院脳神経内科の臨床で開始されました。

レカネマブは日本のエーザイ株式会社と米国のバイオジェン社が共同開発した薬で、アルツハイマー病の原因物質であるアミロイドβを取り除き、病気の進行を遅らせる効果が期待されています。国内では昨年12月から保険適用となっていますが、薬価が高額であることや適応範囲が限られていること、副作用のリスク、さらに「アミロイドPET」と呼ばれる専用の検査を行える医療機関が少ないことから、ごく限定的に処方されています。

今回当院で投与を受けたのは80歳代の女性。脳神経内科部長の安藤哲朗医師と宇田川雄也薬剤師が作成した投与スケジュールに基づき、丁寧なフォローアップとともに実施しています。

治療を担当している安藤部長は、次のようにコメントを寄せています。

安藤医師

認知症にはいくつかの原因があります。その中でもっとも多いのがアルツハイマー病です。アルツハイマー病では脳の中に「アミロイドβ」と「タウ」という2種類の蛋白がたまることが病気の進行に関連していると考えられています。2023年12月にアミロイドβの抗体薬「レカネマブ」が認可されて、日本でも使えるようになりました。適応になるのは、軽度認知障害か、軽症のアルツハイマー病です。中等度以上に進行したアルツハイマー病には使用することができません。

レカネマブにはアルツハイマー病の進行を遅らせる効果があります。1年半使用するとおよそ半年程度、認知症の進行を抑えることができるといわれています。ただし、2週間に1度通院して点滴をする必要があること、費用が高額であること、脳にむくみや出血などの副作用が発出する場合があることなどを考慮して、治療をするかどうかを慎重に判断する必要があります。

ご関心がある方は、脳神経内科を受診してください。

ユニクロ亀田総合病院店　オープン１周年

病院内への出店は済生会中央病院に続く2店舗目として、昨年5月28日（日）にオープンした「ユニクロ亀田総合病院店」。1周年を記念して、夏を快適に乗り切る服選びのヒントを松﨑響店長に伺いました。

■肌にやさしいコットン素材

肌触りがよく、吸水性・通気性にすぐれたコットン素材は年間をとおして人気です。この時期におすすめしたいのが、「エアリズムコットンオーバーサイズＴシャツ」（男女兼用）。一枚で着られるしっかりとした生地に、エアリズムの機能性（汗を速乾するドライ機能、接触冷感）を兼ね備え、肌触りもさらりとしてさわやかです。

松﨑店長

■夏でも需要のある長袖

冷房や紫外線対策として、夏場でも長袖Ｔシャツやインナー、カーディガンなどご用意しています。

■裾の広がったパンツ

リハビリや運動用のウェアをお求めの方の場合、パンツは裾を絞ったデザインより、広がったものが好まれます。汗をかいてもすぐ乾く、「エアリズムウルトラストレッチドライEXテーパードパンツ」（メンズ）は、タテヨコ自在に伸びて抜群に動きやすいのが特徴。ヒップポケットには運動中でも物を落としにくいようファスナーも付いています。

ユニクロ亀田総合病院店
営業時間　9：30～18：30
電話番号　04-7096-6781
＊電話での商品のお取り置きやお取り寄せは行っておりませんのでご注意ください。

【駐車場について】

店舗周辺には専用駐車スペースを設けていません。病院駐車場をご利用ください。ただし、平日昼12時までは外来患者さまを優先といたします。

次号「病院は誰かの仕事でできている」のコーナーでは、ユニクロ亀田総合病院店の魅力を詳しくご紹介する予定です。どうぞお楽しみに。

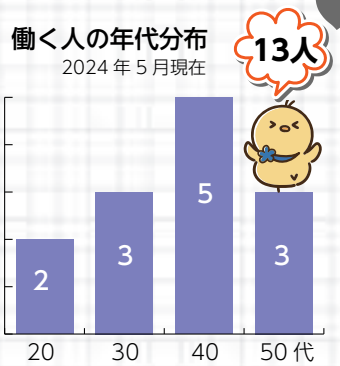
病院は誰かの仕事でできている

今回の部署

カスタマーサービス部

病院こそ、心身ともに弱った患者さまからの要望に応えるためにコンシェルジュサービスが必要だとして、Kタワーのオープンに合わせて2005年に誕生したカスタマーサービス部。入院・外来施設の玄関先に専用カウンターを設け、患者さまをはじめ病院を訪れるすべてのカスタマー（顧客）の要望や困りごとを解決する「よろず相談窓口」として多様なサービスやサポート業務を行っています。

働く人の年代分布
2024年5月現在



お仕事のやりがいは？

入院中、朝刊の配達や買い物代行などで繰り返し関わる機会のあった患者さまが顔を覚えてくれ、退院後も外来受診のついでにKタワーのインフォメーションカウンターを訪ねてくださることがあります。前回からお変わりなく通院されている姿を見ると安心できる瞬間です。

「あなたの顔が見られてよかった」「話ができてよかった」と嬉しいお言葉をかけていただくこともあります。忙しさも乗り切れる活力になります。

日々のいろいろな出会いに感謝しています。

大変だなと感じることは？

相手の要望に応えられるよう、得た知識や情報は部署内で共有し、疑問に思う事があれば必ず調べる癖をつけるようにしています。

異業種からの転職者も多いため、部内ミーティングなどを通じて、接遇や医療知識を勉強する機会を増やしています。

業務でこころがけていることは？

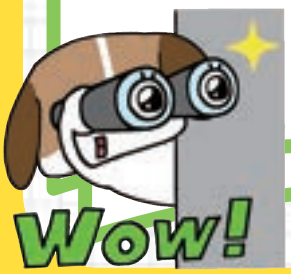
昨年5月から面会が一部制限つきで再開され、1日400人を超える面会者のご案内をしています。受付業務はできるだけ「早く・丁寧に・正確に」をこころがけています。

さまざまな問い合わせや相談が寄せられますが、相手のペースにあわせ、話を遮らずじっくり聞くことを大切にしています。

感染対策上、院内ではマスク越しのコミュニケーションが続いています。目元の表情や、聞き取りやすくはっきり発声することで、相手にしっかり伝わるよう意識しています。

亀田クリニックのサービスカウンターでは、正面玄関での車の乗降サポートはもちろん、「おはようございます」「お大事になさってください」と、お一人おひとりに声をかけるよう努めています。

カスタマーサービス部では昨年「コンシェルジュのあるべき姿」を全スタッフでディスカッション。思いやりの心を持ち不安を和らげる「接遇力」、自分の頭で考えて臨機応変に動ける「対応力」、さまざまな物事に関する豊富な「知識」をコンシェルジュに求められる能力と位置づけ、今年度は特に接遇力の向上に取り組んでいます。



思い出に残る「Always Say YES!!」なエピソードをカスタマーサービス部に聞きました。

episode① 病院で結婚式

入院中の母に花嫁姿を見せたい―。そんな娘さんからの強い希望を受け、院内で結婚式を挙行したことも。ご家族と医師・病棟スタッフ、レストランスタッフなどが協力し準備が進められました。当日は牧師さんもやって来て、K タワー 13 階ホライゾンホールを会場に、厳かに式が執り行われました。ウッドデッキでのフラワーシャワーには職員も参加。患者さまと娘さんのかけがえのない時間をお祝いすることができました。

episode② たった1人の観客に向けたLIVE

いつも応援してくれている A さんをダンスパフォーマンスで元気づけたい―。ご家族から A さんが闘病中であることを聞いた芸能事務所社長から、そんな相談が病院に寄せられました。患者さまの体調には日々変化があるなかで、騒音や振動が発生するダンスパフォーマンスをどう実現させるか。病院長も交え、関係者でギリギリまで開催場所や急変時の対応などが調整、検討されました。迎えた当日、大好きなアーティストを前に、患者さまは歌に合わせて手を動かすなど、ご家族とともに終始楽しそうに過ごされていた姿がとても印象的でした。

SECRET

学歴や経歴がユニーク！ 多彩なメンバー

・音大出身者やパティシエ、服飾系、化粧品会社のビューティーアドバイザー、ホテル業界、金融機関など、さまざまな学歴や経歴を持つスタッフが集まっています。

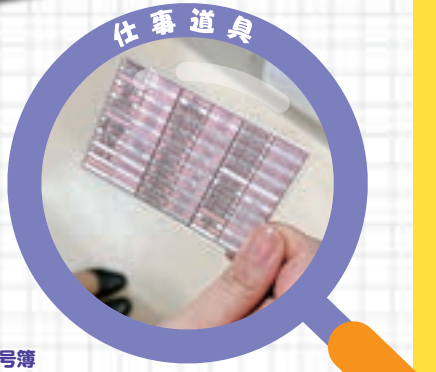
・「インフォメーションに立っていると、“ オルカ、応援しているよ！ ” と声をかけてくださる方もいて励みになります」と、はにかんだ笑顔で語るのは、女子サッカーチーム「オルカ鴨川 FC」のGK としても活躍する横山野ノ香さん。昨シーズンからチームに加入し、同時に社会人としての第一歩を病院コンシェルジュとして歩み始めました。はじめは分からないことばかりだったと言いますが、二足のわらじ生活も 2 年目に突入。今シーズンは「去年より多く試合に絡むこと」を目標に、2 年連続リーグ優勝に向けて、仕事にサッカーに、さらなる活躍が期待されます。

趣味も全力投球

・プライベートが充実しているからこそ、仕事にも全力投球できるというもの。実は K-POP アイドルや SixTONES など「推し活」が盛んなカスタマーサービス部。休憩時間中、“ 推し ” の話題で盛り上がることもしばしば。&TEAM のファンだというあるスタッフは「“ 推し ” の存在のお陰で毎日が豊かになっている」と目を輝かせます。

・また、食べることが大好きで、趣味と実益を兼ね、カフェ巡りを趣味にしているスタッフも。頑張った自分へのご褒美や、新しいお店を開拓すべく、営業日と自分の休みをにらめっこしながら、休日を楽しんでいます。

仕事道具



・電話番号簿

コンシェルジュ業務にあたるスタッフが常に名札のなかに潜ませているのがオリジナルの電話番号簿。院内の主だった連絡先をコンパクトにまとめているので、日々の業務でも大活躍のアイテム。

・スニーカー

最近、スニーカーを履いたコンシェルジュスタッフがいることに気づいた方はいますか？ 立ち仕事が多く、院内を動き回るため、腰痛予防や機動性の観点から、ドレスコードを見直し、スニーカーの着用を解禁。玄関やロビーで転倒された方がいた場合も、いち早く駆けつけることができ、「動きやすくなり、膝の痛みもなくなった」「足音が気にならなくなった」そうです。

亀田総合病院報
No.280
亀田ホームページ　https://www.kameda.com
2024年7月1日発行（隔月発行）　発行責任者：亀田隆明　編集：広報企画室
発行：医療法人鉄蕉会　〒296 - 8602 千葉県鴨川市東町 929
当広報誌は個人情報保護のもと本人の了承を得て作成しており、本用途以外の転用は固くお断りしております。
All articles on this PR magazine has been printed under the permission of the subscriber to protect their personal information.
All editorial content and graphics may not be copied without the permission of Kameda Medical Center, Public Relations which reserves all rights.